

令和4年2月18日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 令和4年2月18日(金曜日)

午後2時30分から午後3時50分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席者

教育長 金澤 俊道 委員 鷲尾 達雄 委員 大久保 真紀
委員 荒木 正 委員 廣川 佳予子

4 職務のため出席した者

教育部長	安達 敏幸	子ども未来部長	水島 幸枝
教育総務課長	水島 正幸	教育施設課長	吉田 朗
学務課長	青木 佐土子	学校教育課長	中山 玄
学校教育課主幹兼管理指導主事	涌井 良平	学校教育課主幹兼管理指導主事	小畑 活
学校教育課主幹兼管理指導主事	神林 俊之	中央図書館長	佐藤 陽子
科学博物館長	小熊 博史	子ども・子育て課	田中 剛
保育課長	恩田 立也	学校教育課企画推進係長兼指導主事	佐々木 潤
学校教育課学校支援係長兼指導主事	三津輪 宏之		

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐 江田 綾子 教育総務課庶務係長 内藤 貴幸
教育総務課庶務係主査 今井 香

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第4号	条例改正の申出について（長岡市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正）
3	第5号	条例改正の申出について（長岡市保育園条例の一部改正）
4	第6号	財産の無償譲渡の申出について（中之島保育園）
	第7号	財産の無償譲渡の申出について（こしじ保育園）
5	第8号	補正予算の要求について

7 会議の経過

（金澤教育長） これより教育委員会2月定例会を開会します。

◇日程第1 会議録署名委員について

（金澤教育長） 日程第1 会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第19条第2項の規定により、荒木委員及び大久保委員を指名します。

◇日程第2 議案第4号 条例改正の申出について（長岡市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正）

（金澤教育長） 日程第2 議案第4号 条例改正の申出について（長岡市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正）を議題といたします。この内容と次に予定しているすべての日程については公表前となるため、非公開が適当ではないかと思いますが委員の方々はいかがでしょう。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

非公開とするため関係者以外は退席をお願いします。

事務局の説明をお願いします。

(田中子ども・子育て課長) 議案第4号 条例改正の申出、長岡市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について説明します。改正の理由について、放課後児童クラブは、教員のOBや保育士など実用の資格を持って、かつ新潟県等が実施する研修会を修了した方を放課後児童支援員として、児童40人に対して1名配置することとしています。長岡市においても令和2年度から、国が定める放課後児童支援員の配置や資格の基準が、国に従うべき基準から参酌すべき基準に見直され、市の責任と判断を基に、地域の実情に応じた運営が可能となったことから、今年度末まで、研修を修了していない方も、放課後児童支援員としてみなす経過措置をとってきた経過があります。しかしながら、未だこの研修を修了していないみなし支援員が70名程度いることから、特に学校の夏休み等長期休暇期間に、こういった方々の活躍がなければ児童クラブの運営に支障が生じることや、併せて資格研修の受講機会も確保したいことから、改正案として、みなし期間を2年延ばし令和6年3月31日まで延長したいものです。2年間延ばすとみなし支援員70名の受講が終わる予定です。

(金澤教育長) 質疑・意見はありませんか。

(金澤教育長) いつまでも延ばすわけにもいかないと思いますが大丈夫ですか。

(田中子ども・子育て課長) 2年延ばすと解消されると思います。

(金澤教育長) これより採決に移ります。本件は、原案のとおり決定することに異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり決定しました。

◇日程第3 議案第5号 条例改正の申出について（長岡市保育園条例の一部改正）

(金澤教育長) 日程第3 議案第5号 条例改正の申出について（長岡市保育園条例の一部改正）を議題とします。事務局の説明をお願いします。

(恩田保育課長) 議案第5号 条例改正の申出、長岡市保育園条例の一部改正について説明します。改正の理由と内容について、長岡市立中之島保育園及びこしじ保育園の令和5年4月1日からの民営化に伴い、条例に記載の長岡市立中之島保育園及びこしじ保育園を削除するものです。施行日は令和5年4月1日です。

(金澤教育長) 質疑・意見はありませんか。

(金澤教育長) これより採決に移ります。本件は、原案のとおり決定することに異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり決定しました。

◇日程第4 議案第6号 財産の無償譲渡の申出について(中之島保育園)

議案第7号 財産の無償譲渡の申出について(こしじ保育園)

(金澤教育長) 日程第4 議案第6号 財産の無償譲渡の申出について(中之島保育園)、第7号 財産の無償譲渡の申出について(こしじ保育園)を一括して議題とします。事務局の説明をお願いします。

(恩田保育課長) 議案第6号 財産の無償譲渡の申出について(中之島保育園)、第7号 財産の無償譲渡の申出について(こしじ保育園)を一括して説明します。令和5年4月1日から長岡市立中之島保育園及びこしじ保育園を民営化することに伴い、過去の民営化と同様に、建物、付属する工作物及び物品一式の財産を移管先法人である、中之島保育園は社会福祉法人芳香稚草園に、こしじ保育園は社会福祉法人王神福祉会にそれぞれ無償譲渡するものです。譲渡日はいずれも令和5年4月1日となります。

(金澤教育長) 質疑・意見はありませんか。

(鷲尾委員) それぞれの築年数はどれくらいになりますか。

(恩田保育課長) 中之島保育園は昭和60年3月18日に建築で、約37年経過しています。こしじ保育園は平成14年4月1日に建築で、約20年経過しています。

(金澤教育長) 他に質疑・意見はありませんか。

(金澤教育長) これより採決に移ります。本件は、原案のとおり決定することに異

議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり決定しました。

◇日程第5 議案第8号 補正予算の要求について

(金澤教育長) 日程第5 議案第8号 補正予算の要求についてを議題とします。事務局の説明をお願いします。

(水島教育総務課長) 最初に1点訂正をお願いします。資料表題が「令和3年3月」となっていますが「令和4年3月」に修正をお願いします。初めに、教育総務課分について説明します。歳入補正額31万2千円の減額、歳出補正額2億3,656万9千円の減額補正です。理由は、毎年度この時期に行う人件費の整理です。歳入の補正額については、歳出で減額する会計年度任用職員の報酬に係る雇用保険料被保険者負担分となります。歳出の補正額については、正規職員の人事異動等の整理や会計年度任用職員の任用数が見込みを下回ったため減額するものです。歳出の主な内容について、民生費については、子ども・子育て課及び保育課に所属している事務局職員と、保育園に勤務している保育士及び調理員等の人件費です。教育費・小学校費・学校管理費については、学校の管理員及び調理員の人件費です。中学校費についても、小学校費同様であります。小学校からの人事異動により正規職員の割合が増えたため増額となりました。

(田中子ども・子育て課長) 子ども・子育て課分の補正予算について、説明します。歳出の補正額97万9千円については、令和2年度に実施した「ままりら」や「ままナビ」などの産前産後サポート事業について、事業費が確定したことにより、国から受け入れた補助金を精査し、過剰分について返還したものです。

(恩田保育課長) 保育課分の補正予算について、説明します。歳入補正額が2千円、歳出補正額が39万7千円です。これは過年度事業費確定に伴い、歳入は事業を実施した事業からの返還金の受け入れ、歳出は国への返還金です。

(佐藤中央図書館長) 債務負担行為について説明します。西地域図書館、南地域図書館、北地域図書館、中之島と寺泊の地域図書館の、この5つの施設について、令

和4年度における維持管理運営に係る委託料の不足分を増額するものです。令和4年度が指定管理の協定の最終年度にあっており、最後のところで限度額調整するものです。不足となった内容は、令和2年度の感染症対策の経費となります。

(金澤教育長) 質疑・意見はありませんか。

(金澤教育長) これより採決に移ります。本件は、原案のとおり決定することに異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) 異議なしと認めます。よって、本件は原案のとおり決定しました。

(金澤教育長) 以上をもって、本日の議案の審議については終了します。非公開はここまでとします。

(金澤教育長) 次に、協議報告事項に移ります。最初に、長岡市の児童生徒の問題行動及び諸課題状況についての報告です。この内容については、個人情報を含む案件があるため、その部分のみ非公開が適切だと思いますがよろしいでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(金澤教育長) まずは、長岡市の児童生徒の問題行動及び諸課題の全体の状況について、事務局の説明をお願いします。

(三津輪学校教育課学校支援係長兼指導主事) 昨年7月に長岡市の児童生徒の問題行動等について報告をしましたが、このたび、長岡市と全国・県との比較がまとまったので報告します。初めにいじめについて、長岡市の1,000人あたりのいじめ認知件数は、全国・県と比べると大きく下回っています。昨年度は、コロナ禍による一斉臨時休校や教育活動が制限されたことも影響し、全国・県ともに認知件数は減少しています。市内すべての小中学校で、いじめ見逃しゼロスクール集会、小中連携事業の実施などによる、いじめ防止の取組を行っており、中学校地区単位で結成した地区サポートチームによるあいさつ運動や講演会等の取組も行っており、いじめを見逃さない意識が高まりつつあります。今後も各学校がいじめの認知を積極的に進め、いじめの芽を見逃さないよう、子どものSOSをキャッチする教職員の意

識を高め、組織をあげて対応することについて指導を行います。次に不登校について、長岡市の不登校児童生徒数は平成 26 年度から平成 29 年度まで、小学校合計 240 名前後で推移していましたが、平成 30 年度から 300 名を超え、令和 2 年度も 395 名と増加傾向にあります。これは全国・県ともに同様の傾向となっています。特に小学校における不登校の発生率は全国・県を上回っています。不登校の要因を 1 つに特定することはできませんが、学業不振、人間関係の問題、家庭の問題など多くの要因が複雑に絡み合っていると思われます。学校は校内適応児童教室の整備を進め、リモートによる学習支援を行うなど、不登校・不適応の児童生徒への支援に力を入れており、市としても不登校支援の I C T 機器の活用を一層進めていきます。また、子どもふれあいサポート事業の 1 つである、子どもを語る親の集いも定期開催しており、不登校の子どもの保護者の支援を行い、参加した保護者からは大変好評を得ています。市のフレンドリールーム、適応指導教室等の積極的活用や、子どもサポートコール、子ども・青少年相談センターによる 20 歳未満の児童生徒とその保護者の支援を包括的に行いながら、不登校数の減少に取り組みます。最後に暴力行為について、長岡市の小中学校の暴力行為は、全国・県と比較しても、小中学校共に発生率は非常に低い傾向です。各学校が教育相談体制を点検し、子どもの心の状況を把握するとともに、教職員と子どもの良好な関係作りを進めながら、暴力行為の発生防止に努めます。全体の状況の報告については以上です。

(金澤教育長) 質疑・意見はありませんか。

(荒木委員) いじめについて、全体数としては全国的には減っている中、タブレットが 1 人 1 台というような状況で、タブレットを使ったいじめが唯一増えています。長岡市ではこの部分について、どのような情報をキャッチしているか教えてください。

(中山学校教育課長) 令和 3 年度から 1 人 1 台タブレットを小中学校で普及していますが、長岡市においては、タブレットのチャット機能等を使った誹謗・中傷等が発生している事案は今のところないという認識です。ただ、これから現場での活用が進んでいく中で、そういったセキュリティ面も含めてリテラシーの部分についてもしっかりと現場に対しての指導を進めていきます。

(荒木委員) いろいろな情報が出てくる中で、今、保護者は子どもが家庭にタブレ

ットを持ち帰ることによって、その部分を非常に心配しています。タブレットは、保護者は一般的には、コロナ禍の中で良いと言う部分と、声には出さない恐怖という部分があって、子どもの方が保護者を上回っている実力を持っており、非常に不安があります。今後タブレットを使ったいじめが増えていき、長岡でも発生する可能性は残念ながらあります。これが本当に表に出たときに、保護者の不安が一気に高まってきます。これに対してどう対応するかというのを、発生する前に考えて対応する必要があると懸念しています。そのように対応をお願いします。

(金澤教育長) 関連して、E d u—D i v e r 構想のプラットフォームを活用して、これから子どもたちの多様な学びを進めていく中で、長岡市は持ち帰りをさせていない中、いずれは持ち帰りをを行い活用していく必要がありますが、そこに対して、今段階でなにかしら考えている予防策やルールがもしあれば教えてください。

(中山学校教育課長) 現在、新年度のプラットフォームの構築の中で、可能であれば2学期前の秋口を目途に、検討を進めているプラットフォーム上の仮運用を始めたいと思っており、その状況によって国が目指している持ち帰りについても段階的な導入を検討したいと考えています。そのなかで、当然タブレット上でのセキュリティ・リテラシーの面もそうですが、中学校段階では、スマートフォン所持やSNS上での対応についても、これまでも長岡市ではセーフティプログラムを持った中で取り組んできたので、家庭との連携についても、プラットフォーム構築検討委員会の中で、より具体的なセキュリティ・リテラシーに繋がるように、対応策を検討したいと考えています。

(荒木委員) 教育委員会がどれだけ頑張っても、一方では家庭で頑張ってもらわなければいけないと考えています。そのとき参考になるのが、PTAでは、携帯電話への対応を、保護者の立場からも考えるということをプッシュしました。あの運動は非常に大きかったと思っています。教育委員会がどれだけ頑張っても、保護者・家庭の協力と理解がないといけません。また、こちらからも、そういう動きを出すことによって、長岡市は、行政と保護者がともにタッグを組んで取り組むという印象を作り上げてもらいたいので、是非検討してください。

(鷲尾委員) OBとして懸念するのは、今コロナで市P連の活動がされておらず、横の繋がり、面の繋がり軽薄になっています。確実に各地域のPTAの仕組みが

劣化しているのを感じるので、今、荒木委員にご指摘いただいた教育委員会として
上手く市P連を使うというか、連携していただくためにも、ウィズコロナ、アフター
コロナに向けて、市P連と上手く二人三脚となるよう努めてください。

(金澤教育長) 1年半前までは、家庭でのメディアコントロールを盛んに言ってい
ましたが、1人1台タブレットが導入されてからそういう声が聞こえてこなくなっ
てきました。家庭に持ち帰ることは、やりながら有効活用することは必要だと思
いますが、そこに至るまでにどういう手立てをして、そこに予防策を組むのかとい
うことは、PTAとの連携、家庭との連携、教育委員会としてすること、これを是非
持ち帰りをする前に、定例会へ報告してください。

(金澤教育長) 他に、質疑・意見はありませんか。

(金澤教育長) この後の内容については、個人情報を含む案件となるため、傍聴の
方は退席をお願いします。

— 会議規則第20条第2項の規定により記録中止 —

(金澤教育長) 次に、令和4年度長岡市教育委員会当初予算の概要についての報告
です。この内容は公表前でありますので、引き続き非公開が適当ではないかと思
いますが、委員の皆様いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、事務局の説明をお願いします。

(安達教育部長) 令和4年度長岡市教育委員会当初予算の概要について、説明しま
す。昨年12月の定例会では、令和4年度当初予算として要求した事業の内容の説
明をしましたが、これに対し、このたび予算の内示があったため報告します。教育
委員会の令和4年度の当初予算総額は、要求額281億6,989万2千円に対して、内
示額は、280億3,183万円です。パーセンテージとしては要求に対する内示額は
99.5%となっています。また、昨年度の当初予算と比較すると、青葉台・上川西な
ど児童館・児童クラブの整備が完了したことや、学校の大規模改造工事が令和3年
度に前倒しになったことなどから、6億1,783万1千円の減額となりました。また、

昨年度から増額となった主な内容として、子宮頸がんワクチン対応費用の増額、E d u - D i v e r 構想推進事業費の拡充、長岡スクール・サポート・スタッフの新規配置、社会教育施設の改修等があります。現行の教育振興基本計画に基づく主要事業の予算状況について、事業の目的、概要については12月定例会で説明したため、今回は省略します。なお「R4事業の概要」の中で、取消線の表記があるものは、予算の内示を受けて事業内容を変更するものです。また、各事業の中には予算要求額より内示額が多いものがありますが、これらは予算要求後の制度改正や業務の追加などにより増額になったものです。次に、令和4年度に実施する新規事業等の状況について、説明します。事業の内容については、昨年11月定例会で説明していますが、市立学校教育環境調査検討事業費を、この度新たに追加しています。具体的な事業内容は、後ほど担当課長から説明します。全体の要求額は9億9,373万6千円で、これには、中央図書館施設整備改修事業の継続事業における、令和5年度分も含まれていますが、この要求額に対し、8億7,534万5千円の内示がありました。要求通りとなった事業がある一方で、ハード整備を伴う事業や人件費を含む事業の一部減額があり、要求額に対する内示額の割合は88%となっています。なお、この予算案について、3月4日に招集される長岡市議会3月定例会に提案することとなります。以上で説明を終わります。この後、新規に追加した事業や予算査定により内容の変更がある事業について各担当課長から説明します。

(青木学務課長) 令和4年度新規事業等の状況の、市立学校教育環境調査検討事業費について説明します。この事業は、昨年11月定例会の際には間に合わず説明できませんでしたでしたが、12月定例会の際の、令和4年当初予算の要求で、小中学校規模是正化検討事業の拡充ということで説明したものになります。事業の内容として、少子化の進展により、今後も市立学校の児童生徒数の減少が見込まれるなかで、複式学級の編成が今後継続的に見込まれる学校、または、近い将来見込まれる学校で、近隣校との往来が容易な平場の学校、隣の学校との距離が離れているような中山間地の小規模校、町中の児童生徒数が少なくなった小規模校などについて、将来を見据えながら先進地の事例など情報収集し、今後の望ましい教育環境を調査・検討するための事業費として34万7千円の内示が要求通りあったものです。

(田中子ども子育て課長) こども発達相談室関連事業について説明します。近年増

加傾向にある、発達が気になる子どもについて、発達特性に早期に気づき、個々の特性に合わせた関わりを持つことで、健やかな成長や悩みの解消に繋げていくため、現在の子ども家庭センターが、来年度課級組織に昇格することに伴い、子ども発達支援の機能や体制を強化する内容となっています。予算内示の状況として、発達支援コーディネーターを増員し2名体制とし、窓口あるいは来所による相談体制の強化や、保育士等が各駅や園を巡回する相談機能について着手する予定です。また併せて、これまでは、子どもの発達の特性や療育に着眼していましたが、次年度は、親を含めた、親の学びの場として親子教室やペアレントトレーニングといった講座も実施します。また、子どもの悩みを持つ家族同士の交流の場としたサロンの方も整備します。主な減額理由としては、市民理解や意識醸成を促す啓発活動費用を要求しており、これが減額となりましたが、出前講座等を継続することで周知・徹底を図っていきたいと思っています。続いて、子ども家庭支援事業について、一部事業の組み直しを行いました。当初は、産休・育休等で収入が減少した、経済的負担が大きい乳児期の子育て家庭を支援するために、市内の協賛店舗を募り、おむつ等の乳幼児品について、市内で使える応援券を、赤ちゃん1人につき5万円を支給する子育て応援券事業を考えていましたが、視点を変えて、妊婦への支援として、マタニティライフ応援事業という制度を新設することとしました。これは、妊婦になった方のお祝いの気持ちと出産までの日々を心豊かに過ごしていただき、その後の順調な出産・育児に繋げていただくために、妊婦の方の口座に直接5万円を現金給付したいと考えています。用途については制限せず、検診の交通費、妊婦の衣服、リラクゼーションなど幅広く活用していただくことを想定しています。予算規模について、対象は3,000人で、予算額は1億5,000万円程度としています。

(恩田保育課長) 特別支援教育・保育経費補助事業について説明します。これは障害児保育の推進事業で、配慮が必要な児童の入園を促進するため、見守る専任職員の人件費や教材費を補助するというものです。減額の理由としては、補助件数と人件費の補助基準額を精査したものです。しかしながら、配慮が必要な児童について、これまで障害者手帳や医師の診断がなければ対象にならなかったものが、診断がなくても、保育上配慮が必要な子どもであれば対象にするという対象児童の拡充であったり、児童を見守る専任職員についても保育士の資格がない、保育補助の職員で

あっても補助の対象になるという配置要件の緩和はできたため、本来の目的を達成できるものと考えております。

(中山学校教育課長) 長岡版コミュニティ・スクール推進事業について説明します。令和4年度は、全市展開を目指しておりますが、一部減額となりました。全市展開を目指す考え方は変わりませんが、今年度行ったパイロット校の取組の実施を継続しながら、協議会の設置について、より工夫を図りながら、より良いコミュニティ・スクールの取組に繋げていくための検討を合わせて進めていきたいと考えています。なお、これまでも、地域と学校が連携して取り組んでいる実績がありますので、そういった取組と併せて、長岡版コミュニティ・スクールのより効果的な全市展開に繋げていきたいと考えています。続いて、インクルーシブ教育システムの充実について、特別支援教育推進事業費を説明します。令和4年度の事業概要として、現状154人いる介助員について31人増員し185人の配置が認められました。個に配慮した介助員の配置をより充実させていく中でより現場に対する支援に繋がってきたいと考えています。新規事業、医療的ケア児支援事業について説明します。医療的ケアを行う家族の負担軽減の法律が施行されたことに伴い、令和4年度、市立学校へ医療的ケアを要する児童が入学する予定なので、これに対する医療を行う介助員・看護師の拡充を図るための予算が認められたものです。続いて、新規事業の、長岡スクール・サポート・スタッフ配置事業について説明します。これまでも県事業で、教員以外でもできる事務処理・印刷・仕分け作業等を行うスクール・サポート・スタッフを8名配置していました。令和4年度は長岡市の事業として10人配置することとなりました。最後に、新規事業の、E d u - D i v e r 構想推進事業費について説明します。今年度も長岡式双方向型教育情報プラットフォームの構築に向けて検討を進めており、秋口を目途に、プラットフォーム上でのウェブサイトの展開によるコンテンツ等の仮運用を始めたいと思っています。コンテンツの制作経費が若干減額となりましたが、本数だけではなく、中身の質にこだわったコンテンツの作成・検討を進めて、仮運用を目指していきます。

(金澤教育長) 質疑・意見はありませんか。

(荒木委員) コミュニティスクール推進事業について、希望する学校または中学校区にCSディレクターを配置する予定になっているみたいですが、これは目星がつ

いているということですか。

(中山学校教育課長) 現在、パイロット校で行った部分についても、今年度に各小中学校に情報提供して、CSディレクターについてはすべて目星がついている状態です。

(荒木委員) 特別支援教育推進事業の介助員について、今年度は154人いるとのことですが、今年度は全員配置できていましたか。

(中山学校教育課長) 全員配置できていました。

(荒木委員) 来年度は185人になるということで、他の市町村では確保できないところもだいぶあると聞いているので、この人数を確保できる長岡市は素晴らしいと思います。

(金澤教育長) 欠員のないよう採用をお願いします。

(金澤教育長) 他に、質疑・意見はありませんか。

(金澤教育長) 非公開はここまでとします。

(金澤教育長) 続いて、令和3年度長岡市学校教育の共通実践事項の実践状況について及び令和4年度長岡市学校教育の共通実践事項について、事務局の説明をお願いします。

(中山学校教育課長) 長岡市学校教育における共通実践事項ということで、毎年度、この時期に各校で創意工夫しながら取り組む実践事項について、検討を進めているところであります。本日その内容について報告します。

(佐々木学校教育課企画推進係長兼指導主事) 令和3年度長岡市学校教育の共通実践事項の実践状況について説明します。まずは、「人生や社会に生きる確かな学び授業イノベーション」について説明します。調査については「県の教育課程調査、全国学力・学習状況調査：学習活動に関する質問紙調査」を分析しました。学校の研修の状況について、コロナの関係で各学校、公開授業や研修の持ち方をかなり工夫して実施している様子が伺えます。定期的に協議することや授業公開の割合が若干下がっていますが、学校によっては、日を決めるのではなく、日常的に意見交換をしながら授業づくりをするという研修体制に変えている学校があるので、かなり

各学校工夫して進めている状況です。「全国学力・学習状況調査：学習活動に関する質問紙調査」の回答で挙げた3つのものを見ると、3つの項目すべて経年変化で上昇していることが分かります。これについては、学習指導要領の趣旨の理解が進んだということもありますが、1人1台タブレット環境が有効に働きつつあるという状況も見受けられると思っています。課題として「話し合い活動を行っていない」と答えた児童生徒に対して「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりできなかった」児童生徒で括ったとき「話し合い活動を行っていない」児童生徒の方が正答率が上回っています。つまり、活動を自覚していないということに課題があると考えられるので、授業の質を高めるという意味で1人1台端末を効果的に活用して、議論するような活動を充実させることが課題であり、これから目指すべきだと思っています。続いて「長岡への愛着と誇りを育む学習 ふるさと学習」について説明します。「ながおか学」の活用、平和教育の着実な取組ということで各学校に調査をかけています。「ながおか学」については、全市立学校で調べ学習等で活用している状況で、様々な活用の仕方があります。このことについては、具体的な活用事例について各学校に発信し、より効果的な活用を広げていきます。平和学習についても、コロナウイルス対策を講じながら、様々な体験活動を実施している状況であります。戦災資料館の利用者数も小学校でだいぶ人数が回復している状況が見受けられます。各学校でさらに地域素材を生かした活動を取り入れることを進めていきます。続いて「夢・志・自身を育む教育活動 熱中・感動体験」について説明します。こちらも「新潟県 教育課程の編成・実施状況等に関する調査（長岡市の結果）」を基に分析しました。各学校、新型コロナウイルスの対策を施しながらも、確実に体験活動を充実させているという状況が伺えるので、様々な対策を取りながら、充実させるような方向で支援していきます。キャリア教育についても、年間指導計画について、まだ作成率が低いところが見受けられるので、作成について呼びかけながら、キャリア教育をさらに充実を図っていけるよう支援していきます。続いて「互いに認め合う温かな人間関係づくり 道徳教育・人権教育の充実」について説明します。こちらも「新潟県 教育課程の編成・実施状況等に関する調査（長岡市の結果）」を基に分析しました。小学校・中学校共に、重点内容項目の見直しについて若干低くなっていますが、既に学習指導要領が変わったことに伴い、

重点内容項目の見直しを図り、実際に進めている状況が見受けられます。確実に実践は進んでいるので、さらなる実践を進めていきます。人権教育・同和教育については、「生きる」シリーズを活用した授業実践を全小中学校で行っています。引き続き全校体制で取り組めるよう指導していきます。続いて「安心・安全で心やすらぐ学校づくり チーム学校の体制強化」について説明します。こちらは「新潟県 市町村立学校の生徒指導体制等の自己点検（長岡の結果）」を分析しました。いじめ認知件数については、全国・県を大きく下回っていますが、学校が、よりきめ細かにいじめの認知を進めている体制が定着していると考えています。いじめが早期発見・即時対応がとれる体制の強化に努めて、また、子どもの気持ちに寄り添った指導・支援の充実を図ることがとても重要と考えているので、そのようなところを支援していきます。また、1人1台タブレットが入っていて、不適切な使用によるトラブルが懸念されるので「長岡市SNSセーフティプログラム」を活用した情報モラル教育の推進を取り立てて、学校現場にも印象付けていく必要があると思っています。また、防災訓練・防災教育も引き続き充実を図りたいと考えています。続いて「一人ひとりを大切にした支援 インクルーシブ教育システムの構築」について説明します。こちらは「R3 インクルーシブ教育システムの構築に関する課題発見アンケート（長岡市立学校 81校分）」を分析しました。こちらのほうも概ね良くできており、個別の指導計画の作成について取り組んでいるところがかなり多くあります。さらに充実させていきたいと考えています。併せて、令和3年度については、インクルーシブシステムの構築ということで、特別支援の試験に関する整備を行いました。一人ひとりを大切にした支援ということになると、例えば、日本語指導を要する児童生徒や入院した時の学習支援など、そういったところも一人ひとりを大切にした支援の一つに当たるので、各学校が意識できるようなものにしていきたいと考えています。最後に「保幼小中及び地域・家庭との連携・協働 学びをつなぐ活動の工夫」について説明します。こちらについては、今年度、保幼小中一体になって子どもを育てていく理念を各学校に伝え始めている状況です。スタートカリキュラムというところになると、まだ実施できていないところもありますが、それも含めて、保幼小中で研修を進めているという状況です。だいたい進んできていますが、来年度は、さらに基本理念の共有を進めて、こういった取組についても挙

げていきたいと思っています。またコミュニティスクールのパイロット校では、地域の発信から新たな活動が展開されることも出てきているので、このような良い事例を参考にしながら、コミュニティスクールを進められるような取組が必要だと思っています。令和3年度長岡市学校教育の共通実践事項の実践状況については以上になります。引き続き、令和4年度長岡市学校教育の共通実践事項について説明します。昨年度と比較して、学校が取り組むべき内容が分かるように簡略化して示しました。また、長岡市教育振興基本計画のスタートアップにある内容について、長岡市として大事にしたいところを、学校現場において知識にして取り組めるようキーワードとして盛り込み、解説を7項目17共通実践事項が横につながるような表し方をして、項目が何を表しているのかを分かるように示しています。すべてを説明するのは難しいですが、解説の中で大事なところは「人生や社会に生きる確かな学び」のところで「授業イノベーションの推進」を1つ挙げます。これは、E d u - D i v e r 構想・学校教育の中心となるので、後ほど説明しますが、授業イノベーションの概要について別紙で学校に示していきます。また「一人ひとりを大切にしたい支援」のところに、特別支援の視点で2項目入れましたが、3つ目に「E d u - D i v e r 構想による多様な教育的ニーズへの対応の推進」ということを挙げ、これについても支援していきます。「安心・安全で心やすらぐ学校づくり」のところで「長岡市SNSセーフティプログラム」の活用」を挙げました。ここで上げた7項目17共通実践事項については、すべて教育センターでの研修など、様々な支援を通じて学校現場を支援していきながら、すべての学校で実践できるように来年度努めていきます。細かな内容については後ほど資料をご覧くださいと思います。最後に、令和4年度 E d u - D i v e r 構想に基づく授業イノベーションについて説明します。学校現場に授業イノベーションに関する長岡市の捉えについて示したいということで、以前、9月補正予算の際に出した図を噛み砕き、説明をつけて学校に提供したいと考えています。主体的・対話的で深い学びを充実させるために、まずは3つの視点で学びを充実させていきます。「個別最適な学び」「協働的な学び」ということで、この視点で整備をすると、ICTを効果的に活用することで、教育活動が充実するということを示しています。基本的には効率化・簡略化をすることで、より実のある学習をすることができます。例えば「学習の個性化」

であれば、それぞれ子どもたちに沿った学習をすることができる、「指導の個性化」であれば、子どもたちに合った学習を提供することも、ICTを使って簡略化することができます。「協働的な学び」では、課題の提示を簡素化したり、今までは、意見を挙げてもらうときに手を挙げて発表していたものを、タブレット上で全員の分を貰える、今まで発言できなかった子の考えもすべて取り上げられる、それを基にすぐに分析・整理もできるので、そうすると、顔を突き合わせてしっかりと話し合う時間を十分に確保できる、そういったところをしっかりと大事にしていきたいということを学校に伝えます。また、この2つの視点にも入っていますが、ICTの活用が中心になっていくと忘れがちになっていくので、実体験を伴う活動的な学びというのは、例えば、単に学習内容を知るだけではなくて、その場に行った匂いとか雰囲気みたいなものも学習内容と併せて実感することで、例えば、コンテンツなどの学習を見るときにも、実感を持って見るができるようになるので、そういったところも学校に伝えていきたいと思います。まずはこの方向性で授業イノベーションということで授業づくりを学校の方で進めていただきたいという思いを込めて、こちらの方を出していきます。但し、ICTの活用は簡略化などが中心となりますが、使い方によっては夢のある使い方もあるので、世界規模での交流活動もできるということも匂わせつつ、日々の授業が充実するよう支援していきます。この中身については、授業イノベーションの対応で、研修等でサポートしていく体制を取ります。

(金澤教育長) 質疑・意見はありませんか。

(荒木委員) Edu-Diver 構想に基づく授業イノベーションは避けて通れません。だから非常に関心を持って見えています。でも研究者の中では、デジタルにリアルな部分を繋げておかなければいけないと言われていています。世界的に研究が進んでいて、デジタル一本化でやっていると学力の低下を招くというのはほぼ証明されています。学校訪問でタブレットを使っている授業を見せてもらっていますが、1人だけ、タブレットを使いながら、必要なことを板書しており、それをまた子どもたちが、大事だと思うことを自らの手でノートに書いている、この部分があるかないかで、認知という面でかなり変わってくると思います。タブレットの場合、画面が消えた瞬間に、そこから学習内容そのものが見た目には消えてしましますが、

板書・ノートで繋ぐことで、それが認知することに結びついていると思っています。10件くらい見たが1人だけそれをしていました。確かに見たときに、この学級の子どもたちの学力はつくだろうなと思って、その後いろいろ聞いてみると、その学級の学力は高いと言っており、ということを見ると、そこの部分はある程度対応しなければいけないだろうし、そして、今はなにが正解か分からないで授業づくりをしている方が多いが、長岡市はこれだけ優秀な指導主事がいるので、例えば指導主事が、子どもたちの能力を高めることができるタブレットの活用方法について提案する等、いい実践を集めることも大事ですが、長岡市が求めている授業の一端を指導主事の皆さんが検討し、2～3案示してくださって、そしてまた検討を進めていくということをしていただくと、長岡市は非常に意味のある実践が出来ていくと思っています。私も実は、校長になってから「こんな授業を求めている」ということで、授業をさせてもらったことがあります。「校長先生が今まで言っていた授業カリキュラムってこういうことが大事なんですね。」ということ職員は具体的に理解してくれました。それだけでも、非常に職員とのコミュニケーションが進みました。ここは、指導主事が師範してくださると、現場のやる気も変わってくると思います。

(金澤教育長) 他に質疑・意見はありませんか。

(金澤教育長) 続いて、附属機関等会議報告について、事務局の説明をお願いします。

(佐藤中央図書館長) 長岡市の子ども 50冊(仮)第3回選定委員会について報告します。1月25日(火)に選定委員会を行い、3回目で最後の会議となりました。お勧めの本のリストの内容と名称について、選定委員会としての最終的なものを決め、リストのとおり100冊となりました。選定の考え方について説明します。長く読み継がれた作品や定評のある作家を中心に選びましたが、その中に、新しい作家の作品を厳選して加えました。物語の他に哲学など子どもの興味や関心に合わせて様々なジャンルから選んでいます。また、古くからある本では、男女の役割が固定化されたようなところがあるので、そういったところを気を付けて、多様性を認め

る視点を持った作品を選定しようと考えました。対象年齢については、子ども一人ひとり個性や環境によっても変わるものなので、リストに示している対象年齢はあくまでも参考ということで考えています。子どもたちに長岡の民話や長岡の出来事、長岡出身の作家についても楽しんでもらいたいと考えました。このリストについては、概ね5年を目途に内容を見直したいと考えています。リストの名称は「よもよもブックス」という名前を案として考えています。

(田中子ども・子育て課長) 長岡市予防接種健康被害調査委員会の結果について報告します。この会議では、新型コロナウイルスワクチンを接種された4名の方とBCG・種痘を接種した1名の方から、それぞれ予防接種による健康被害の申し立てがあったので、委員の皆様から医学的な見地でワクチン接種による健康被害であったかどうか審議をいただきました。年齢・性別・具体的な症状については控えさせていただきますが、審議の結果、4件の申請はワクチン接種との因果関係の可能性が否定できない、残り1件についてはワクチンの因果関係は明確に無しとは言えないが、それによる健康被害には当たらないだろうという結論に至り、この内容で県を通じて国に進達することとしました。

(金澤教育長) 質疑・意見はありませんか。

(鷲尾委員) 子どもの50冊のおすすめの中で、長く読み継がれたもので社会的な変化でふさわしくないものを省いたという説明がありましたが、ちなみに「あの名著がなくなってしまった」というものはありますか。

(佐藤中央図書館長) 「あれはどうして入ってないの？」という声はあります。

(鷲尾委員) 1つ、2つ教えてください。

(佐藤中央図書館長) 「いやいやえん」という有名なものがありますが、その中で「男の子は冒険に行きましょう」「女の子はお部屋で待ちましょう」という内容で、子どもにとっては違和感もあるので省きました。

(金澤教育長) 他に質疑・意見はありませんか。

(鷲尾委員) 予防接種の副反応について、5名中4名がワクチン接種との因果関係との可能性が否定できなくなりましたが、その後どのような流れになりますか。

(田中子ども・子育て課長) 今回の結果について、県を通じて国に進達されますが、最終的な認定は、国の審議会に諮った上で決定されます。

(鷲尾委員) 認定された場合はどのような対応となりますか。

(田中子ども・子育て課長) 医療費の支払いや、後遺症等が残る場合は、障害者年金の支給となるケースもあります。

(金澤教育長) 他に質疑・意見はありませんか。

(金澤教育長) 以上で、協議報告事項を終わります。

(金澤教育長) 次に、催し物案内等について、事務局の説明をお願いします。

(佐藤中央図書館長) 3月10日(木)「図書館資料に親しむ 講座くずし字を讀んでみよう」、3月13日(日)「ボランティア養成講座 絵本と子どもの発達」、栃尾美術館が「館所蔵品展 ～春の展示～」を開催します。

(小熊科学博物館長) 「縄文楽検定」ということで、長岡市も加盟している信濃川火焰街道連携協議会で毎年行っている、縄文を楽しく学ぶ検定で、3月6日(日)に馬高縄文館で開催します。

(金澤教育長) 他に報告事項はありませんか。

(金澤教育長) 以上で本日の定例会を閉会します。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員